

平成30年度 事業報告

1 概況

我が国経済においては、このところ輸出や生産の一部に弱さもみられるものの、緩やかに回復しているとされているが、一方、貿易摩擦の影響や中国経済の先行きなどに留意する必要があるともされている。

雇用情勢は、有効求人倍率が高い水準で推移するとともに、人手不足が、深刻となっている。

今後、少子超高齢社会の進展に伴い、労働力人口が一層減少することが見込まれる中、生きがいづくりや健康づくりなどを目的に、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務にかかる就業機会を確保し、高齢者に提供するシルバー人材センターの役割は、現役世代のサポートの視点からも、今後、益々、重要になってくるものと期待されている。

このような中、本センターの平成30年度受注状況に関して、まず、請負契約での受注件数は、個人などからの受注が減少したことにより、20,237件となり、前年度に比べ1,225件、5.7%の減少となった。

また、受注金額は、公共、個人などからの受注の減少により、593,894千円となり、前年度に比べ18,080千円、3.0%の減少となった。

さらに、これまで右肩上がりで拡大してきた派遣事業についても、受注件数は増加したものの、受注金額が、117,854千円となり、前年度に比べ6,304千円、5.1%の減少となり、これを前述の請負契約にかかる実績に加えた本センター全体の受注状況では、受注件数は、21,591件、前年度に比べ1,132件、5.0%の減少、受注金額は、711,748千円、前年度に比べ24,384千円、3.3%の減少となった。

また、会員数については、継続雇用制度の運用や幅広い産業での深刻な人手不足の影響などから、平成30年度末で1,716人となり、前年度末に比べ54人、3.1%減少した。併せて、就業者数は、個人からの受注が減少したことなどにより、減少した。

具体的な施策としては、会員の加入促進を目指し、就業相談や入会説明会を実施するとともに、高松市が実施したイベントへの参加や高松市共同募金委員会からの助成を受けて「遍路への観光案内・お接待事業」、さらには街頭啓発活動や地域でのボランティア活動の実施など様々に工夫を凝らし、本センターの周知・啓発に取り組んだ。

また、国の「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」の活用や、介護保険制度新総合事業や派遣労働会員のキャリアアップを図るための教育訓練の推進、新たに空き家管理事業の検討など就業の拡大に努めた。

一方、安全就業に関しては、引き続き、自動車運転業務に従事する会員に対し設定した年齢制限や研修制度の的確な運用を行うとともに、事務局だよりなどを通じた安全就業の周知・啓発を始め、安全講習会や事故を起こした会員を対象とした特別研修の実施など安全就業の推進に取り組んだ。

さらに、重篤事故を教訓として、自走式草刈機の操作研修の実施や職場安全パトロールの定期実施に新たに取り組むとともに、香川県シルバー人材センター連合会主催の安全就業推進大会へ多くの会員が参加した。

平成30年度シルバー保険適用の傷害・損害賠償事故件数は、平成29年度に引き続き、過去10年間で最も少なかった。

また、適正就業に関しては、長期間、同一職場に就業する会員を対象に適正就業の徹底や就業先への巡回調査の実施などにも努めた。

併せて、平成31年度からの5年間を計画期間とする「第3次中期計画」の策定や最低賃金の引上げに伴う配分金の改定、会員の一層の交流促進を図るため同好会の充実など、将来を見据え、本センターの円滑・着実な事業運営に努めた。